

不登校対応加配教員の取り組みについて

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、集団行動に入れず、グループ討議を苦手とする傾向から教室に入ることができなくなり、不登校となっていた。登校しても玄関付近で立ち止まり、そのまま下校する日が多かった。別室「ココカラ・ルーム」の運営を始めてから、毎日登校し、表情も明るくなり、数回ではあるが授業に参加することができている。

具体的な取組

(1) 組織力の向上

加配教員を中心に、3人体制で別室担当を設けた。校内別室指導支援員を加え、別室「ココカラ・ルーム」の運営を行っている(週5日1, 2時間目)。担当教員が担任や学年の特別支援担当との連携を密にし、多くの職員で別室指導に携わっている。

(2) 校内委員会の充実

毎週月曜日に校内委員会(管理職、各学年の特別支援担当、校内別室指導支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー)を開き、情報共有を行っている。また、火曜日(運営委員会)、木曜日(生活指導部)の委員会を通して、学年からの細かい情報や生徒の変化、保護者の様子等、常に学校全体で状態を把握している。

(3) 実践の成果

登校時刻を少しずらすことで、安心して登校することができるようになった。また、毎日同じ教員と支援員が別室で生徒を迎え入れることで、リズムができ、コミュニケーションをとる機会が増え、居場所ができ表情が明るくなった。



(4) 個々の不登校生徒への支援

毎日登校する生徒もいれば、週に2~3回の生徒もいる。生徒にあった別室利用を行っている。登校後に、授業に参加できる場合は校内別室指導支援員が付き添い、安心した気持ちで教室へと行ける体制をとっている。



成果

別室を開設したことで、自分から毎日登校できるようになった。登校後に、授業への参加もできる回数が増え、表情も明るく意欲的な面も出てきている。多くの先生との関わりを通して、学校での居場所ができ、気持ちが安定してきている。

課題

別室の開設時間を増やしていき、学習に対する意欲を向上させていくことが今後の課題である。